

第 1 部

序 論

1. 第六次羽村市長期総合計画の概要

(1) 名称

この計画の名称は、「第六次羽村市長期総合計画」とします。

(2) 計画の構成と期間

第六次羽村市長期総合計画は、基本構想、基本計画及び実施計画で構成しています。

①基本構想

基本構想は、長期的な視点に立ち、市が目指す将来のまちの姿や、その実現に向けて大切にする考え方、取組みの視点を示すもので、市行政の総合的かつ計画的な運営を図るための指針です。

●基本構想の計画期間

令和4(2022)年度～令和13(2031)年度(10年間)

②基本計画

基本計画は、基本構想に掲げた将来のまちの姿を実現するため、計画期間内に市が進める施策ごとの取組みの方向性を定めるものです。

基本計画は、前期基本計画と後期基本計画で構成します。

●基本計画の計画期間

前期基本計画：令和4(2022)年度～令和8(2026)年度 5年間

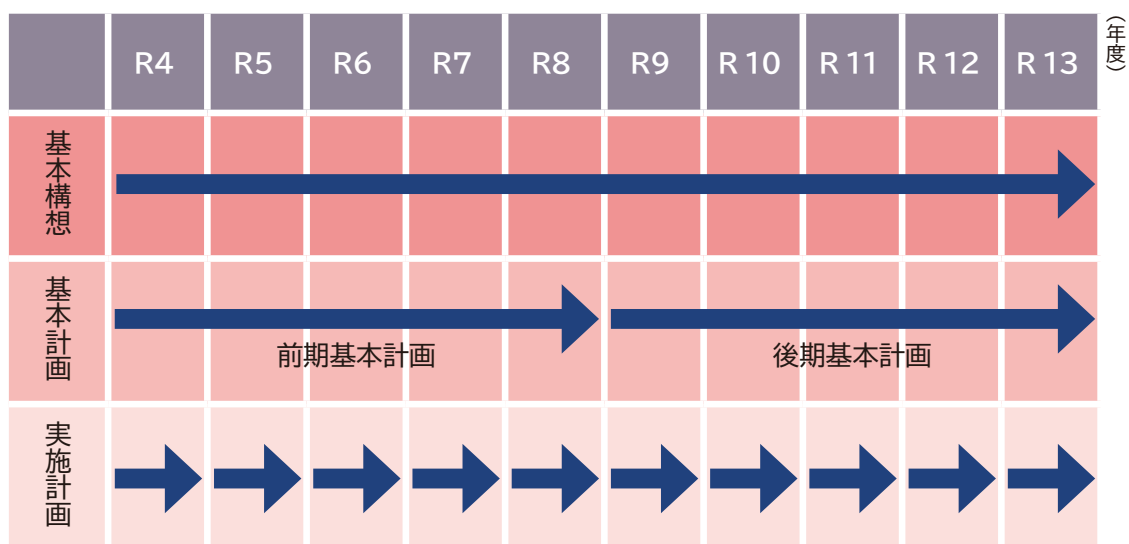
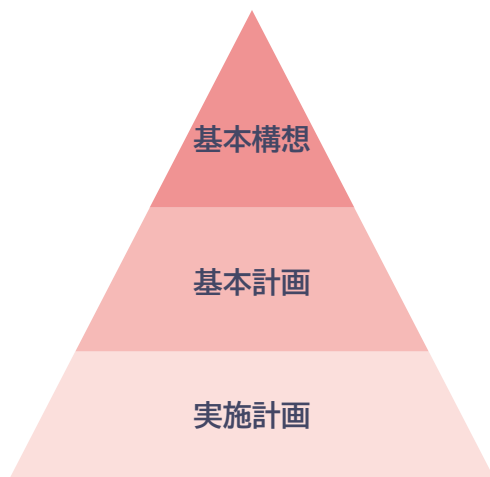
後期基本計画：令和9(2027)年度～令和13(2031)年度 5年間

③実施計画

実施計画は、基本計画に位置付けた施策に基づき、市が重点的に実施する事業を示すものです。

社会経済情勢の変化などに伴う市民生活や、新たな市民ニーズ等に対応できるよう策定します。

【計画の構成と期間】



2. 羽村市の概要

羽村市は、都心部から西に約45 km、武蔵野台地の一角、多摩川の河岸段丘上に位置しています。東は瑞穂町、南は福生市・あきる野市、西は青梅市、そして北は青梅市と瑞穂町に接しており、その広さは、東西に 4.23 km、南北に 3.27 km、行政面積は 9.90 km²となっています。行政面積の一部約 0.417 km²を横田基地が占めています。行政面積は、日本で7番目、都内で3番目に小さい市です。



人 口	54,725 人 ※うち外国人 1,472 人 (2.7%)
	┌ 0～14 歳 6,579 人 (12.0%)
	├ 15～64 歳 33,567 人 (61.3%)
	└ 65 歳以上 14,579 人 (26.7%)

世 帯	25,781 世帯 ※うち外国人世帯 731 世帯 (2.8%)
------------	----------------------------------

人口密度	5,528 人/km ²
-------------	-------------------------

面 積	9.90 km ²
------------	----------------------

(令和3(2021)年1月1日現在)
※人口・世帯は、住民基本台帳による。

3. 羽村市を取り巻く状況

(1) 人口減少期における少子高齢化の進行

日本の総人口は、平成20(2008)年の1億2,808万人をピークに減少傾向にあり、令和2年国勢調査では、1億2,615万人となっています。

国立社会保障・人口問題研究所(以下「社人研」)の平成29(2017)年の推計では、令和42(2060)年の日本の総人口は、約9,300万人まで減少するとされており、人口減少への対応が課題となっています。

羽村市においても、平成22(2010)年の57,772人をピークに減少傾向にあり、令和27(2045)年の人口は、市独自推計(令和2(2020)年実施)では、42,862人、社人研推計(平成30(2018)年実施)では、41,111人まで減少する見込みです。

人口減少や少子高齢化の進行は、地域経済の縮小や労働力の不足、地域のつながりの希薄化など、社会経済に大きな影響を与えることから、人口構造の変化に対応し、地域の特徴を活かした持続可能な社会をつくることが重要となります。

(2) 地方創生

国では、急速な少子高齢化や人口減少、地域経済の縮小、労働力の不足などを克服するため、「まち・ひと・しごと創生法」に基づく取組みを進めており、令和元(2019)年12月に、第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、さらに、令和2(2020)年12月には、新型コロナウイルス感染症による意識や行動変容を捉えた『第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」(2020改訂版)～感染症の影響を踏まえた今後の地方創生～』を策定しました。

この戦略では、人口減少を和らげること、地域の外から稼ぐ力を高め、地域内経済循環を実現すること、人口減少に適応した地域をつくることなどを目指し、関係人口の創出・拡大、地方移住の推進などの取組みを進めていくこととしています。

羽村市の将来人口推計では、引き続き人口減少・少子高齢化の進行が見込まれています。安心して子どもを産み育てることができ、すべての子どもがすこやかに成長することができる環境の整備や、羽村市内の産業の活性化を図るなど、地域の特徴を活かした取組みを進めていくことが必要です。

(3) 新たな感染症の脅威

令和2(2020)年1月に国内で初めて確認された新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、瞬く間に世界中に広がり、社会経済に大きな影響を及ぼしています。

国では、感染の拡大防止や、医療提供体制のひっ迫を解消するため、新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づき、東京都などの地方自治体に対し、複数回に渡り緊急事態宣言を発出しました。

このことにより、外出・移動の自粛や3つの密(密閉・密集・密接)の回避、テレワークの推進、施設の使用中止、イベントの開催制限、飲食店等への営業時間の短縮要請、学校の休業など、さまざまな措置が取られました。そして、マスクの着用や手指の消毒、人同士の距離の確保(ソーシャルディスタンス)、検温の実施、飛沫感染防止パネルの設置などが当たり前の日常となり、新型コロナウイルス感染症を乗り越えていくための新しい日常が定着しています。

(4) デジタル化の推進

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、不要不急の外出自粛が要請されたことや、3つの密（密閉・密集・密接）を回避するため、テレワークやオンラインサービスが普及するなど、ICTがさまざまな場面で活用されるようになり、生活をあらゆる場面でより良い方向に変化させていく「DX（デジタル・トランスフォーメーション）」という概念が広く浸透してきました。

一方で、新型コロナウイルス感染症の対応において、行政のデジタル化の遅れ等の課題が明らかになったことを踏まえ、国では、令和2（2020）年12月に「デジタル社会の実現に向けた改革の基本方針」を策定するとともに、令和3（2021）年9月に、デジタル庁を設置して、「誰一人取り残さない、人にやさしいデジタル社会の実現」を目指しています。

羽村市においても、「人と人」「人とモノ」がさまざまな形でつながり、日々の暮らしがさらに便利で快適になるよう、デジタル化の取り組みを進めていくことが求められています。

(5) 自然災害の発生

近年、地震、台風、集中豪雨、大雪などによる甚大な自然災害が全国各地で発生しています。国では、未曾有の被害をもたらした東日本大震災の教訓を踏まえ、平成25（2013）年12月に、「強くしなやかな国民生活の実現を図るための防災・減災等に資する国土強靱化基本法」を制定し、いかなる大災害が発生しようとも、「人命の保護」「被害の最小化」「経済社会の維持」「迅速な復旧・復興」ができる社会を目指しています。

羽村市では、令和元年台風第19号の接近に伴い、市内全域に初めて避難勧告^(*)を発令しました。

大規模災害に対する備えでは、個人や地域での対策や、関係機関との連携強化が重要であり、自助・共助・公助による災害に強いまちづくりが求められています。

(*) 令和3（2021）年5月に、災害対策基本法が改正され、「避難勧告」と「避難指示」を「避難指示」に一本化することとなり、災害時における、円滑かつ迅速な避難の確保が強化されました。

(6) SDGs（持続可能な開発目標）の推進

SDGs（Sustainable Development Goals・持続可能な開発目標）は、平成27（2015）年9月の国連サミットで採択された令和12（2030）年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標です。「誰一人取り残さない」という理念のもと、17のゴールと169のターゲットから構成されており、世界各国の共通目標となっています。

国が令和元（2019）年に改定した「SDGs実施指針 改定版」では、地方自治体において、地域のエネルギーや、自然資源、都市基盤、産業集積、文化、風土、組織・コミュニティなどのさまざまな地域資源を活用し、その地域にあった独自のSDGsの取り組みを推進することが期待されています。

用語解説

- ・ ICT（Information and Communication Technology）：情報通信技術。通信技術を用いて情報を共有するなどコミュニケーションが含まれる。
- ・ DX（デジタル・トランスフォーメーション）：ICTを活用し、生活をあらゆる場面でより良い方向に変化させていくこと。

4. 将来人口の推計

平成 27 (2015) 年の国勢調査の人口を基準に、コーホート要因法を用いて、令和 47 (2065) 年までの人口を推計しました。

市の人口は、令和2 (2020) 年の推計値である 54,578 人から、10 年間で 4,000 人程度の減少が見込まれ、令和 12 (2030) 年には、50,623 人を見込んでいます。

14 歳以下の人口の減少、65 歳以上の人口の増加が続き、少子高齢化がさらに進みます。

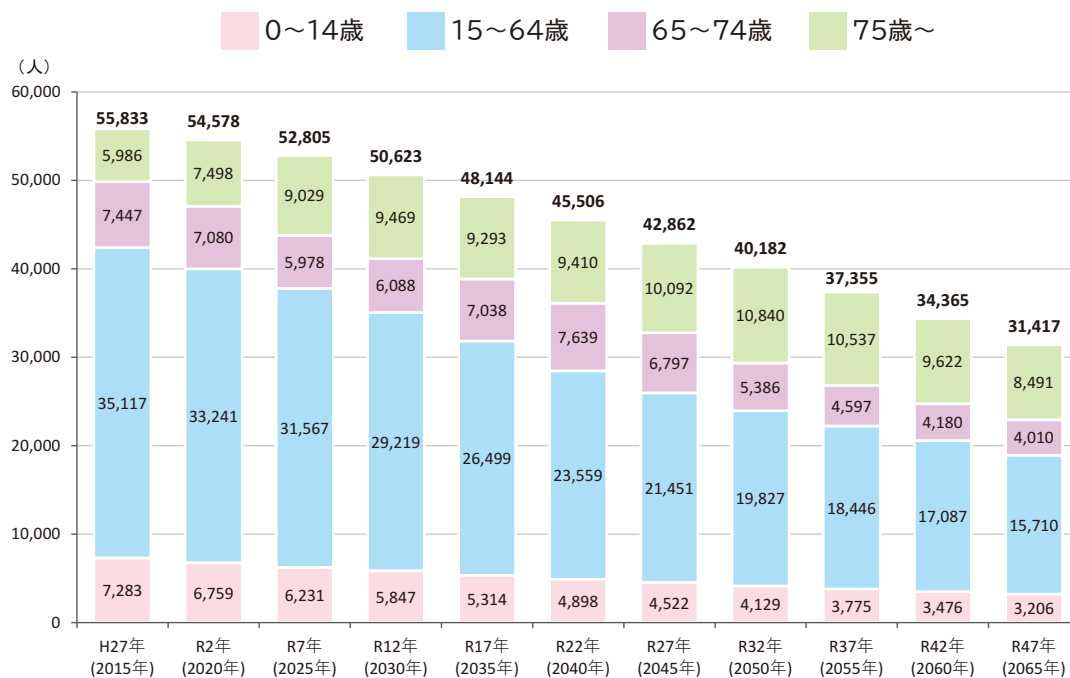
■ 10 年間 (令和2 (2020) 年→令和 12 (2030) 年) で、
人口は約 **4,000 人** 減少

■ 14 歳以下の人口は減少

■ 65 歳以上の人口は増加

人口減少、少子高齢化はさらに進む

図表 羽村市の将来人口推計の結果



実績値

基準日：10月1日

推計値

出典：第六次羽村市長期総合計画基礎調査報告書（令和3（2021）年3月）

用語解説

- ・コーホート要因法：人口変動の三大要素（出生・死亡・移動）について、将来の仮定値を男女別・年齢別に設定することで、基準時点の人口（基準人口）から一定期間後の将来人口を推計し、同様の操作を繰り返すことによって将来人口を推計する方法。

5. まちづくりに関する市民意識

市では、まちづくり（市政）に関する市民の意見などを把握し、今後の市の取り組みや施策に活かすため、令和2（2020）年度に市政世論調査、転入者アンケート調査、市民ワークショップを行いました。

（1）羽村市の住みよさ

■ 羽村市が住みよいと感じている市民の割合

69.3 %



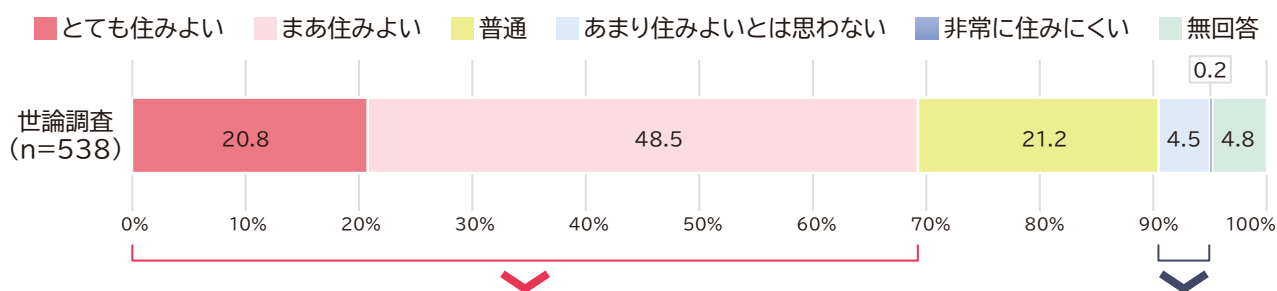
※とても住みよい、まあ住みよい割合の合計値
出典：令和2年度羽村市市政世論調査

羽村市の住みよさは、令和2年度羽村市市政世論調査では、住みよい割合（とても住みよい、まあ住みよい割合の合計）が69.3%と、約7割が住みよいと感じている結果となりました。

住みよい理由として、「自然環境がよい」が47.2%と最も多く、次いで「道路や公園、図書館、スポーツセンター等の公共施設が整備されている」（18.5%）、「買い物が便利」（8.0%）となっています。

また、住みにくい理由としては、「買い物が不便」（24.0%）、「医療や福祉サービスが充実していない」（16.0%）、「交通の便がよくない」・「道路や公園、図書館、スポーツセンター等の公共施設が不十分」（いずれも12.0%）が多くなっています。

図表 住みよさ（令和2年度羽村市市政世論調査）



住みよいと感じる理由

（「とても住みよい」「まあ住みよい」と回答した方
（n=373））

- ・ 自然環境がよい 47.2%
- ・ 道路や公園、図書館、スポーツセンター等の公共施設が整備されている 18.5%
- ・ 買い物が便利 8.0%

住みにくい理由

（「あまり住みよいとは思わない」「非常に住みにくい」と回答した方（n=25））

- ・ 買い物が不便 24.0%
- ・ 医療や福祉サービスが充実していない 16.0%
- ・ 交通の便がよくない 12.0%
- ・ 道路や公園、図書館、スポーツセンター等の公共施設が不十分 12.0%

(2) 定住意向

■ 羽村市に住み続けたいと考えている市民の割合

91.1 %



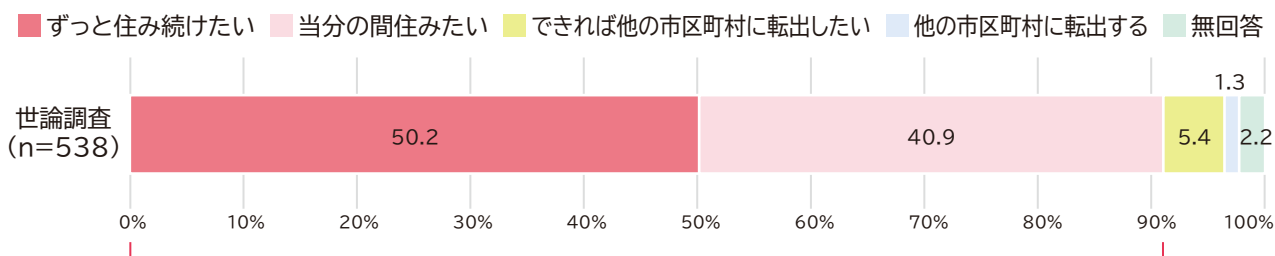
※ずっと住み続けたい、当分の間住みたい割合の合計値
出典：令和2年度羽村市市政世論調査、羽村市転入者アンケート調査

羽村市への定住意向は高く、令和2年度羽村市市政世論調査では、羽村市に住み続けたい割合（ずっと住み続けたい、当分の間住みたい割合の合計値）が91.1%となりました。

令和2年度羽村市転入者アンケート調査でも、羽村市に住み続けたい割合（ずっと住み続けたい、当分の間住みたい割合の合計値）は、91.1%となり、いずれの調査でも9割以上の市民が住み続けたいと考えている結果となりました。

住み続けたい主な理由として、令和2年度羽村市市政世論調査では、「ずっと住んでいるから」「程よく住みやすく、安心して暮らせる」「緑、水など環境が良い」などが、多く挙げられました。

図表 定住意向（令和2年度羽村市市政世論調査）



住み続けたい主な理由（市政世論調査）

（「ずっと住み続けたい」「当分の間住みたい」と回答した方、自由記載）

- ・ ずっと住んでいるから
- ・ 程よく住みやすく、安心して暮らせる
- ・ 緑、水など環境が良い
- ・ 自宅があるから
- ・ 地域の人間関係が良い
- ・ 子育て環境が良い

(3) 羽村市の魅力・羽村らしさを感じる施設や行事

● 羽村市の魅力・羽村らしさを感じる施設や行事

出典：令和2年度羽村市市政世論調査

トップ3

- 1 羽村の堰 58.4%
- 2 動物公園 42.0%
- 3 花と水のまつり 27.0%

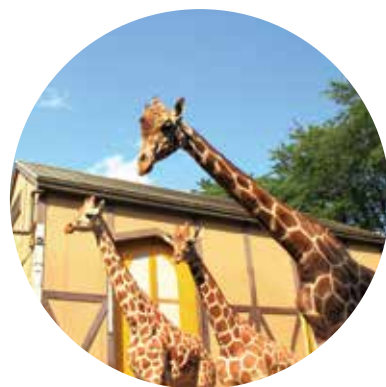
羽村市の魅力や羽村らしさを感じる施設や行事について、令和2年度羽村市市政世論調査では、「羽村の堰」、「動物公園」、「花と水のまつり」の順で多く挙げられています。



● 市民ワークショップの意見 ●

市民ワークショップでは、羽村市の良いところとして、次のような意見がありました。

- 動物公園
- 児童館
- 水車小屋
- 玉川上水
- チューリップ



(4) 今後、力を入れてほしい、実施してもらいたい取組み

● 今後、力を入れてほしい、実施してもらいたい取組み

出典：令和2年度羽村市市政世論調査



- 1 高齢者福祉 33.8%
- 2 医療機関の充実に向けた支援 28.1%
- 3 水や緑を守る自然環境対策 22.3%

力を入れてほしい、実施してもらいたい取組みについて、令和2年度羽村市市政世論調査では、「高齢者福祉」が 33.8%と最も多く、次いで、「医療機関の充実に向けた支援」(28.1%)、「水や緑を守る自然環境対策」(22.3%) が挙げられています。

(5) 今後のまちづくりへの期待

● 将来どのようなまちになってほしいか (希望する将来のまちづくり)

出典：令和2年度羽村市市政世論調査



- 1 防災・防犯や交通安全に配慮した
安心して暮らせるまち 51.9%
- 2 高齢者や障害のある方が
住みなれた地域で安心して暮らせるまち 40.7%
- 3 安心して子育てができるまち 27.7%

● まちづくりに期待すること

出典：令和2年度羽村市転入者アンケート調査



- 1 子育てしやすいまちづくり 37.7%
- 2 犯罪や交通事故防止など安全性の確保 36.6%
- 3 公園や水辺などのうるおいある環境づくり 33.6%

希望する将来のまちづくりについて、令和2年度羽村市市政世論調査では、「防災・防犯や交通安全に配慮した安心して暮らせるまち」が51.9%と最も多く、次いで、「高齢者や障害のある方が住みなれた地域で安心して暮らせるまち」(40.7%)、「安心して子育てができるまち」(27.7%)が挙げられています。

また、令和2年度羽村市転入者アンケート調査では、まちづくりに期待することとして、「子育てしやすいまちづくり」が37.7%と最も多く、次いで、「犯罪や交通事故防止など安全性の確保」(36.6%)、「公園や水辺などのうるおいある環境づくり」(33.6%)が挙げられており、いずれの調査においても、「安全で安心して暮らせるまち」、「子育てしやすいまち」が、将来のまちの姿として期待されていることが分かります。



▲町内会による防犯パトロールの様子



愛情\ギョッ/と
ず〜っと♡
はむら



▲グリーントリム公園



▲東京で子育てしやすいまち

「はむら家族プロジェクト 家族写真撮影会」で撮影した写真

・・・市民ワークショップの意見・・・

市民ワークショップでは、10年後の羽村市の姿、羽村市に必要なこと、できると良いこととして、次のようなキーワードが挙げられました。

- まちづくりで集まれる場所、まちづくりへの参加
- 羽村市を広める、知ってもらう
- 住むのに程よい